

ウクライナ危機と台湾の将来

馮建三（台湾・政治大学教授）

2026 年 6 月 30 聯合報 原題「大戦は来るか 兩岸の政治協商を考える」

5 年 5 カ月に入ったロシア・ウクライナ戦争は拡大の可能性あり。NATO と EU の大きな協力を得たウクライナはロシア領内のエネルギー施設を攻撃、そのためロシアでは 2 割超の石油精錬が停止、モスクワは今のところ「応酬せず」。急進派による政変の発動を防ぐためにプーチンは、第三次世界大戦のリスクを冒してでも大規模攻撃を加えキーウ政府を壊滅させないと欧州の地政学は変えられないだろうとの憶測まで出ている。

それに対し、大戦は回避すべきとするベルギーのデウエーフェル首相は先日、「我々はヨーロッパの利益に基づいてこの(ウクライナの)衝突を終わらせなければいけない。...我々はロシアとの正常な関係を回復して再び安いエネルギーを得るようにしなければいけない。それが理にかなった方法だ」と呼びかけた。

私たちも同じように備え、台湾海峡での「大戦が来る」を避けなければいけない。5 月の世論調査では、「親米かつ中国ともうまくやるべき」が 43%、「親米かつ中国には抗うべき」が 23%だった。つまり 3 分の 2 が親米だ。わからないとした残り 3 分の 1 の半数も親米だとすれば、8 割が親米となる。政府と 3 つの主要政党も親米だ。しかしアメリカの国務大臣だったキッシンジャー氏は「アメリカの敵になることは危険かもしれないが、友になることは致命的である」という名言を残している。この言葉は本意ではなかったとも言われるが、80 数年前のイラン、50 数年前のベトナム、5 年前のアフガニスタンを見れば、それぞれ異なる形でアメリカにひっくり返されて捨てられている。

今のウクライナも、背かれたのではないがもっとひどい。ロシアを弱体化したい NATO に使われて犠牲になっている。アメリカは 2013～14 年にウクライナの極右派がキーフ政府に入るように仕組んだ。極右派はゼレンスキーを脅迫している。ゼレンスキーは 2019 年にロシアと和解すると公約し 2 回目の投票で 75% 近い得票率で大統領になったのに、脅迫されて公約を破った。アメリカなどが軍事協力をして 8 年かけてウクライナ軍を育てた。これがロシアの間違った判断を誘発(または無理強い)してロシアは愚かにも侵入することになった。

私たちは親米すぎて、アメリカが同じように台湾にも東アジアで能力を発揮するように頼ってくることを忘れている。キッシンジャーが言ったことは台湾では起こらないと言えるのか。親米が問題なのではない。どういうアメリカと親しくするか判断が必要だ。アメリカ在台協会(大使館の役割の機関)を務めたリチャード・ブッシュ(Richard C. Bush)が次のように言っていた。アメリカこそ私たちが取るべき選択だ。現状を維持したいなら「いつかは北京と政治的対話をしなければならないということを排除してはいけない」、私たちが「香港のような下位の実体になりたくない」なら「台湾がいかに統一中国に溶け込んでいくか」を議論しなければいけない、そうすれば兩岸の不安を和らげることができる、「台湾の主権宣言と台湾独立をイコールで結んではいけない」と。

リチャード・ブッシュは、主権の一部は守らないといけないが、一部は交換可能だと強調した。そこから考えてみれば、私たちの憲法にも「中国は一つ」の原則があるが、国が一つというのは一種の外交と国防の政策のことだ。いずれ来る、政治的対話の後の新中国は、北京がリードし台湾がついて行く形だが、それをもって内政の自主を取れば、北京にも統治コストを増やさないでいいという利点があり、台湾にとっても毎年数千億の軍事支出を節約できる。さらに、ソ連時代には国連に 3 議席持っていたように、私たちも国連に参加できるように北京に考慮してもらうこともできる。

外交国防と内政主権を天秤にかけることはできるだろうか。今はまだわからないが、リチャード・ブッシュはこう提起した。「このバランスをとるには、台

湾は 1912 年に成立し、中華人民共和国より 37 年も早く誕生した中華民国であり、今まだ台湾で存在しているのだと宣言すればよい。中華民国への支持を得て、自身の主権宣言を強化すればよい」。この言葉は民進党に響くだろうか。

【翻訳 鈴木啓史】

訳者註:

リチャード・ブッシュの言った言葉を筆者は語句単位で「」で括り引用していますが、日本語にしたときにわかりにくくなってしまったので、「」を外しました。

最後の一文は「牛に琴を弾く」（馬の耳に念仏）という成語をひねったもので、直訳すると「これは琴だが民進党は牛か？」となります。皮肉を含んだ表現です。

筆者の馮健三氏は、台湾・政治大学(National Chengchi University, NCCU)新聞学系の教授で、台湾を代表するメディア研究者の一人。